



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

キリバス共和国

— 2024 年度 地域巡回・拠点機能回復等支援事業 —
(終了時評価－2025 年 4 月)

プロジェクトの概要

国名	キリバス共和国
プロジェクト名	2024 年度 FDAPIN VII プロジェクト (地域巡回・拠点機能回復等推進事業 (太平洋地域))
実施期間	2024 年 9 月 11 日 (覚書署名) ~2025 年 3 月 31 日
覚書署名省庁名 及び 事業実施機関	覚書署名省庁：漁業海洋資源省 (MFOR : Ministry of Fisheries and Ocean Resources) ※2024 年 11 月以前は漁業海洋資源開発省 (MFMRD : Ministry of Fisheries and Marine Resources Development) 実施機関：漁業海洋資源開発省沿岸漁業局及び計画開発局

プロジェクト実施の経緯と背景

キリバス共和国 (以下「キリバス」という。) は 2016 年から 2036 年を対象としたキリバス長期開発計画「キリバス 20 年ビジョン 2016-2036 (以下「KV20」という。)」の中で、変革を成し遂げるための 4 つの柱：「財産」、「平和と安全」、「インフラ」及び「ガバナンス」を掲げ、官民間問わず国民全員の参加によるアプローチを提唱している。KV20 は、国家開発計画や各省庁の戦略計画作成の基礎となっており、キリバス政府各省庁との調整のみならず、各国ドナーや開発パートナーとのさらなる関係強化による目標実現にも踏み込んだ内容となっている。また、「キリバス国家漁業政策 2013-2025 (Kiribati



National Fisheries Policy 2013-2025)」では、「持続的漁業、養殖及び海洋資源開発を通じた経済成長と雇用機会の創出並びにキリバス国民の食料安全保障と生計の維持」を目標として掲げている。これらの達成のため、漁業開発・振興を基本戦略にしている。

さらに、MFOR は 2020～2024 年の戦略計画を策定し、同省の沿岸漁業部門は 2019～2036 年のロードマップも策定している。

このような戦略の下、キリバス政府は各種の漁業振興施策を実施しているが、水産関連施設は、故障や老朽化あるいは運営管理の不備等のため本来の機能を発揮することができないものがあり、漁業の開発・振興に支障を来している。

このため、キリバス政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）に対し、水産関連施設の修理・修復及び技術移転並びに関連組織への指導・助言についての支援要請を行った。

財団は、我が国とキリバスとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興施策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業の生産性が向上し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。 集魚装置に係る技術が向上する。
成果	① タナエア及びクリスマスのワークショップのハブセンターとしての機能強化及び技術指導 4 ストローク船外機及び FRP 船の船体の修理・修復方法、資機材の在庫管理方法並びに FAD 漁業講習会を通じ、ハブセンター機能が強化され、またカウンターパートの技術及び知識が向上する。 ② 淡水化装置によるタブノース漁業センターの機能強化及び技術指導 淡水化装置の供与により製氷機用水の不足が解消され、製氷施設の安定稼働に繋がる。カウンターパートの淡水化装置の知識やメンテナンス方法の技術及び知識が向上する。
活動	① タナエア及びクリスマスのワークショップのハブセンターとしての機能強化及び技術指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 点検・整備並びに修理部品のインベントリー作成及び在庫管理の指導 ・ 27ft FRP ボート及び 115 馬力船外機の修理・修復及び技術指導 ・ 4 ストローク船外機の特性及び整備の指導 ・ FAD 講習会による FAD 製作及び設置の技術指導 ② 淡水化装置によるタブノース漁業センターの機能強化及び技術指導

	<ul style="list-style-type: none"> 井戸への淡水化装置の設置及びそれに伴う水配管・電気配線敷設技術の指導 淡水化装置の運転及び保守管理技術の指導
<p style="text-align: center;">投 入</p>	<p>財団側</p> <p>1) 専門家</p> <p>計画</p> <p>第1回巡回指導 漁船機関専門家 2024年10月中旬～12月下旬（約75日間）</p> <p>第2回巡回指導 チームリーダー / 漁業技術専門家 漁船機関専門家 冷凍機器専門家 2025年2月上旬～2月下旬（約25日間）</p> <p>実績</p> <p>第1回巡回指導 漁船機関専門家 2024年10月21日～12月24日（65日間）</p> <p>第2回巡回指導 漁船機関専門家 2025年1月6日～9日（4日間）</p> <p>第3回巡回指導 チームリーダー / 漁業技術専門家 2025年2月5日～3月1日（25日間） 漁船機関専門家 2025年2月1日～3月6日（34日間） 冷凍機器専門家 2025年2月15日～2月27日（13日間）</p> <p>延日数 計画 150人日 実績 141人日（計画対比：94.0%）</p> <p>2) 主な資機材 淡水化装置1台、ワークショップ用工具及びスペアパーツ、FAD製作設置用資材及び保守管理予備部品</p> <p>相手国側</p> <p>1) 主なカウンターパート</p> <p>①タナエア及びクリスマスのワークショップのハブセンターとしての機能強化及び技術指導</p> <p>Senior Fisheries Assistant 1名 Fisheries Technician 5名 Marine Mechanic 2名 Refrigeration Technician 2名 Other staff members 4名</p>

	<p>②淡水化装置によるタブノース漁業センターの機能強化及び技術指導</p> <p>Refrigeration Technician 2名 Operator 1名</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 MFOR 及び水産局における電気・水道・電話（国内通話）の無償提供、資機材の国内搬送費の負担</p>
--	--

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、キリバス政府が策定した国家漁業政策に目標として掲げられている「持続的漁業、養殖及び海洋資源開発を通じた経済成長と雇用機会の創出及びキリバス国民の食料安全保障と生計の維持」に合致した事業内容であり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

キリバスは国家漁業政策の目標達成のため、漁業開発・振興を基本戦略としている。戦略では、各種の漁業振興施策を実施するために水産関連施設が重要としており、水産関連施設を修理・修復し本来の機能を回復・発揮させることを目的とする本プロジェクトは、政府からの協力ニーズが高いことが事前調査において確認されている。

また、水産関連施設が本来の機能を十分に発揮することにより、周辺地域の漁民は、これまで以上に漁業振興施策の恩恵を受けることが可能となる。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、機器の廃棄部品等の扱いについても、キリバスの関連法規に従い、常に環境保全に配慮している。

また指導する FAD については、可能な限り流失を防いで寿命を延ばすため、潮流の抵抗によるロープの破断が起りにくい設計を取り入れている。さらに、定期モニタリング・メンテナンスを実施し、盗難を防止しながら、ロープや結合部の劣化等に起因する流失の恐れが認められる場合には、事前に回収してフロートだけでも再利用するなど、環境に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設機能の回復及び強化を図り、その運営・管理に助言するものである。

船外機の修理、氷の安定供給等により間接的に現地零細漁業者の漁業活動が活発になることが想定されるが、対象漁業者は、無動力カヌーや小型船を利用した底釣り、曳縄、魚突き漁業等の零細漁業が主であり、資源に影響を与えるような漁獲圧の増加は見込まれない。

また、FAD 漁業の普及は、環礁内資源への漁獲圧を低減させつつ一定の漁獲努力量を沖合に分散させる取り組みであり、水産資源の持続利用に配慮した内容である。

5. その他

特になし。

効 率 性

1. 事業費及び実施期間

事業費は資機材の追加供与等があり計画額を上回ったが、実施期間は計画を下回り、全体としてはおおむね効率的であった。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

実施計画に基づき専門家 3 名をタイミングよく投入することができ、計画どおりにプロジェクトは完了した。専門家はそれぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で移転技術の指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの習得水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されたか

クリスマスワークショップで実施した FAD 講習会は、当初、対象者をクリスマス島漁民とし、カウンターパートには OJT で指導する予定であったが、漁民への事前通知が遅れ、漁民参加者は 3 名のみとなった。このため講習会を、漁民と経験が浅いカウンターパートを対象者とし、講師は FAD 漁業の知識・技術があるカウンターパートが務め、講師に対する技術指導を行う Training of Trainers (TOT) に切換えて実施した。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

タラワ在住の日本人技術者と専門家契約をすることにより、カウンターパートと協働できる期間が増え、円滑にコミュニケーションを取りつつプロジェクトを効率的かつきめ細かに実施することができた。

有効性

1. プロジェクト目標の達成度

①プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。水産関連組織の管理・運営が改善され、活性化・自立化が促進される。

計画どおり水産関連施設の機能が強化され、維持・管理に係る技術が向上した。

また、FAD 漁業講習会ではカウンターパートの知識・技術が向上し、ハブセンターの活性化・自立化が促進された。

以上のことからプロジェクト目標は達成された。

②その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

①タナエア及びクリスマスのワークショップのハブセンターとしての機能強化及び技術指導

期待された成果：4 ストローク船外機及び FRP 船の船体の修理・修復方法、資機材の在庫管理方法並びに FAD 漁業講習会を通じ、ハブセンター機能が強化され、またカウンターパートの技術及び知識が向上する。

- ・点検・整備並びに修理用部品のインベントリー作成及び在庫管理の指導（タナエア及びクリスマスのワークショップ）

ワークショップの資機材の整理及び適切な在庫管理方法を指導し、その定着を図った。

- ・27ft FRP ボート及び 115 馬力船外機の修理・修復及び技術指導（クリスマス ワークショップ）

27ft FRP ボート船体の修理はカウンターパートが実施し、4 ストローク 115 馬力船外機についてはメーカーから専用故障診断装置（On-Board Diagnostics）が提供されない状況にもかかわらず、専門家が経験と技術を駆使し修理を行った。これらにより MFOR クリスマス支局は船舶を必要とする業務を再開した。

- ・4 ストローク船外機の特性及び整備の指導（クリスマス ワークショップ）

上述の 4 ストローク 115 馬力船外機を実機教材として、両ワークショップ所属のカウンターパートに 4 ストロークエンジン特性及び整備方法を指導した。

- ・FAD 講習会による FAD 製作及び設置の技術指導

FAD の原理・設計・製作・設置に関する講義、FAD 製作実習及び FAD 海上設置実習から成る講習会を、Sustainable Fishing Unit（以下「SFU」という。）カウンターパート、クリスマス島の Coastal Fisheries Sub-division（CFS）カウンターパート及び漁業者有志（クリスマス島対象漁村より代表者 3 名）を対象に開催した。開催方法

は、当該プロジェクトを通じて経験を重ねてきた SFU カウンターパート 2 名が実習を主導する TOT 講習会とした。講習会で製作した FAD2 基はクリスマス島北東部及び南東部の沖合約 1 マイルの水深 760~800m の漁場に設置した。

- ・これらの活動に参加したカウンターパートには、OJT による技術指導の結果、関連技術の向上又は習得が認められた。

②淡水化装置によるタブノース漁業センターの機能強化及び技術指導

期待された成果：淡水化装置の供与により製氷機用水の不足が解消され、製氷施設の安定稼働に繋がる。カウンターパートの淡水化装置の知識やメンテナンス方法の技術及び知識が向上する。

カウンターパートは、OJT や講習会により専門家から技術指導を受け、以下についての技術及び知識を向上させた。これにより、ワークショップの機能が向上した。

- ・発電機及び製氷機のスペアパーツの整理及び適切な在庫管理方法
- ・アルミ船及び FRP 船の修理・修復
- ・FAD の製作方法

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、ワークショップの機能が強化され、カウンターパートは関連技術を習得した。北タビテウエア島の漁業者は氷を安定的に入手可能となり、またクリスマス島漁民は FAD が利用可能となった。

これらにより、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産の向上、小規模漁業の発展に寄与することが期待される。


2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、関係する漁業者を取り巻く漁業環境が改善された。これにより漁業が活性化し、漁業者の所得向上が期待され、対象地域の経済に直接的な効果の発現が見込まれる。

また、氷は地域住民にも利用されることから、生活環境の向上に寄与し、対象地域の社会・経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれる等）

特になし。

 **持 続 性**

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは MFOR の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された資機材は、ワークショップと漁業センターの稼働及び運営・管理に必要なものであり、カウンターパートを通じて、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、キリバス政府は国家開発政策に基づき離島漁業センターの活用を推進しており、漁業センターの継続的運営に積極的に関与している。したがって、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上